

# ダニ媒介性疾患 Q&A

Q1: マダニはどこにいますか

A1:

## 1. マダニの生息場所



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



Q2: 人がマダニに咬まれないようにするには

A2:

## 2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう!

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。

シャツの裾はスポンの中に入れてみましょう。

農作業や草刈などではスポンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

ハイキングなどで山林に入る場合は、スポンの裾に靴下を被せましょう。

## 3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。

ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上）もある吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

## 4. 忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤（虫よけ剤）が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。

忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

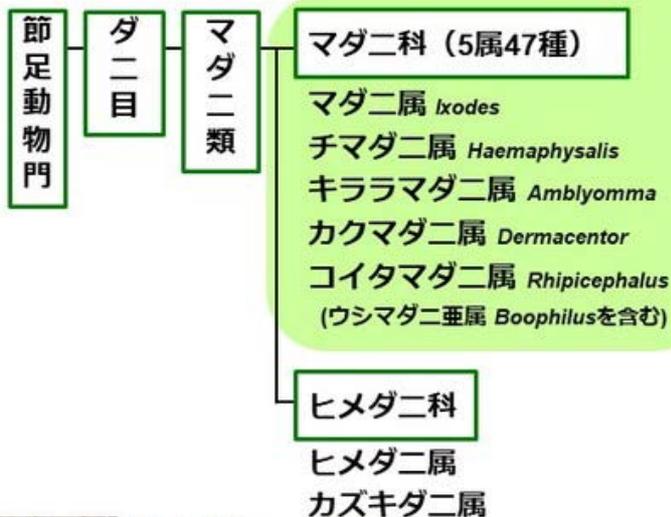


Q3 : マダニ媒介性感染症にはどんなものがありますか

A3 :

## 参考資料 1) マダニの分類とマダニ媒介感染症

**マダニ**は、世界中に800以上の種が知られています。そのうち日本には47種が生息しています。



### マダニが媒介する感染症

( )内は病原体の種類

日本紅斑熱 (リケッチア)  
 Q熱 (リケッチア)  
 ライム病 (スピロヘータ)  
 ボレリア症 (細菌)  
 野兔病 (細菌)

### 重症熱性血小板減少症候群 SFTS

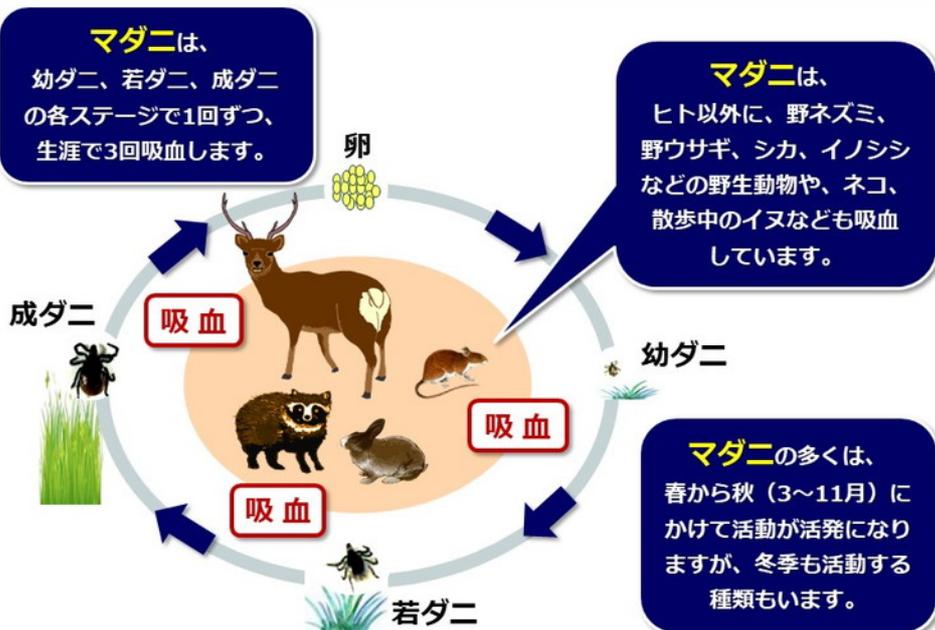
(フレボウイルス)  
 ダニ媒介性脳炎 (フラビウイルス)  
 キャサヌル森林病 (フラビウイルス)  
 クリミア・コンゴ出血熱  
 (ナイロウイルス)

.....など

Q4 : マダニの生活環

A4 :

## 参考資料 3) マダニの生活環



Q5：犬や猫に咬着しないようにするには

A5：

- ② イヌネコにはマダニ予防剤（完全な忌避剤ではない）を定期的に服用（外用、内服）
- ② 散歩から帰ってきたら体チェック（ブラシ、テープ等）
- ③ 咬着していたら、手袋をして、マダニの顎が残らないように顎のあたりをピンセット等ではさみ、マダニを決して潰すことのないように回転しながら取ること
- ③ ライム病などの細菌感染症も可能性がありますので、抗生剤の投与を数日間皮膚病変があれば、ドキシサイクリン、アモキシシリンなど14日間

Q6：SFTSに感染した猫（犬）から人が感染した例があるが、他のダニ媒介性感染症は大丈夫？注意点はありますか？

A6：

- ① イヌやネコに噛まれて発熱した場合は医療機関に受診のこと。その際、必ずマダニに咬まれたことを伝えること
- ② まだ不明な点が多いため、むやみに口移しや口を舐めさせないこと
- ③ ダニ媒介性脳炎は全世界で年間1万人前後の患者がいて、長年の疫学的知見があるが、犬・猫からの感染報告はない。

Q7：マダニを採取する際は手袋、マスクはした方が良いか

A7：ダニ媒介性感染症は吸血されない限り感染しません。

他の衛生的な面を考えると手袋の着用は推奨。

イラストの出展は国立感染症研究所マダニ対策パンフレット「マダニ対策、今できること」